

会 議 要 録

発注者名	浪江町企画財政課	受注者名	ランドブレイン株式会社 (LB)
会議の名称	第 1 回 浪江町復興計画【第三次】後期基本計画策定委員会		
開催日時	令和 7 年 6 月 24 日（火）13：30～16：30		
開催場所	浪江町役場		
構成員	出席者：(別紙名簿) 事務局：浪江町企画財政課 受託者：ランドブレイン(株)		
次第	1 開会 2 挨拶 3 議事 策定スケジュールについて＜資料 1＞ 後期基本計画の施策・取組・成果指標について＜資料 2＞ 後期基本計画（素案）について＜資料 3＞ 4 その他 5 閉会		
質疑応答			
次第 3	策定スケジュールについて		
関谷委員長 委員一同	・事務局説明（資料 1） 今のご説明に関してご意見等はあるか。 特になし。		
次第 3	後期基本計画の施策・取組・成果指標について		
関谷委員長 事務局	・事務局説明（資料 2） (基本方針 I) まず 1 頁目、農業の再開について。成果指標は作付面積だけでいいか。 前期計画では、水稻作付面積、販売農家戸数、農業法人従業員数の 3 つを掲げていたが、避難指示解除等も進み、今回、作付面積だけでお諮りさせていただいたのは、農業が再開していくにあたり、作付面積が増えてくれば、当然、担い手も増えてくる部分もあり、全体を包含した目標を掲げてはどうかということでお示しさせていただいた。		
事務局 (LB)	現行計画では水稻作付面積としているが、畑作など、様々な作付が進んでいるため、今回はそれも含めた作付面積というところで設定している。		
関谷委員長	スマート農業を入れるから作付面積だけという意味ではなく、従事者も増やしていくということか。		
事務局	大規模化であったり、担い手の方が大きな面積を営農されていくにあたって、これから、避難指示の解除を踏まえて農地の活用をしていくところで、作付面積を増やしていく目標にした。		
佐々木委員 事務局 (LB)	ちなみに浪江町では今年、どの位の水稲作付面積があるのか。 資料 3 の 4 頁の 3 つめ◆に記載があるが、670ha が現状値になる。		
前司委員	農地の担い手とマッチングの仕組みと書いてあるが、そもそも相続をして帰ってくる気もない、農地も何も貸すこともない、とりあえず売りたい、持っていたくない人が買ってくれと言ってくる。確認すると農転できない地域もある。私は農家として耕		

	作はできないが、事業はやっているので、その事業に絡めて購入しようとしても、農転できない地域がある。そういった方々の「マッチング」がうまくとれているか。また、そういった調整を誰が担うのか。自力で貸し出しできる人であれば問題ないが、知識も能力も不動産屋に丸投げというような方がほぼほぼで、とりあえず手放したい方が多くいる印象。マッチングの強化をしていかないといけないと思う。
事務局	避難指示が解除された地域の農地をどうするか、どう集約集積をして営農再開を図っていくかは、今回の本文にも設けていて、先ほどの◆3つ目に、地域計画を設定しながら、担い手を誰にするか、地域の営農をどうしていくか計画を作る上で、集積化やマッチングの部分は大事なポイントになるので、そうした形での営農再開を、引き続き推進していくことを事務局としても考えている。
関谷委員長 佐々木委員	次に2、3頁目について皆さんからご意見をもらいたい。 林業に関して、津島地区は依然帰還困難区域で山にも入れない状況で、既に山は荒れ放題。松くい虫被害も多く、このままでは今後、津島の松が無くなってしまうかもしれない。手入れすることができないので、杉も売れなくてこのまま放置していいのか一番困っている。
事務局(LB)	計画書案にも記載しており、関係課とも話している中で林業の再開という取り組みはしているものの、まだ「業」としての再開が難しい状況と伺っている。しっかり「業」として再開できるところを目指して、引き続きこの森林整備を進めていきたいとは伺っている。
事務局	基本方針Ⅲの施策1(1)帰還困難区域の再生の森林を今後どうしていくかに関しては、町としても国に森林の管理方針を明示していただくよう要望等を行っている。
関谷委員長	この資料2は今後公開するのか。
事務局	パブリックコメントはこの計画書案に対してご意見をいただく想定である。
関谷委員長	庁内で議論してきたのはこの資料2になるので、資料2を中心に議論をするが、パブリックコメントに出るのは計画書案ということか。
事務局	資料2をもとにご意見いただいたものに対して、改めて本文に反映していく。
鈴木委員	竹林が非常に山の中に入り込んで、避難しているうちに竹が自生して、すごい竹林となっている場所が結構ある。竹の整備・活用も考えて取り組んだ方がいいのではないかな。竹も林業と重なる部分もあるがその観点が全く入っていないようだ。
佐々木委員	あと10何年経つと竹藪は倍くらいの面積になるだろうか。
事務局	これまで会議や様々な場で、竹林に関する課題は上がってきてなかったもので、改めて竹林に関する課題も検討したい。
石川委員	水産関係で今、震災前と比べて小規模な買い付けが減ってきている。町内で少しずつ飲食店も増えてきているが、そういった飲食店などが買い付けてもらえれば、ある程度の魚は捌けるのではないかなと思う。今獲れている魚は、ほぼ豊洲方面に出荷しているようで、もっと浪江町で地場のものを普及させていただきたいと思う。相馬の業者から申し込んできているという話も聞いたので、できる限り扱ってもらえればありがたい。
関谷委員長 石川委員	直接買い付けしているような人はいないのか。 地元は柴栄水産の業者だけで、個人ではない。豊洲には持っていけないような雑魚が捌けていないような状況。そういったところも少し考えてもらいたい。

関谷委員長	計画書案の2頁目か3頁目かは分からないが、地場商品の他地域での販路拡大ではなく、この地域で販路拡大すべきというところ。そういった記載はどこにもないようだ。この点に関してぜひ、計画書本文でもいいし、販路拡大なので施策1の(3)でもいいかもしれないが、加筆いただければと思う。
石川委員	イ漁業再開の下から2番目のワークショップの意見で、請戸漁港を小名浜港や相馬港のようにしてという事に関しては違うと思うので、これは反映する必要はないのではないかと。
事務局	住民ワークショップからのご意見である。今後何かしら必要な施設だとか出てくる可能性もあるので、情報共有させていただきながら、必要な整備は進めていきたいと考えている。
関谷委員長	地元での販路拡大というのは付け加えていただきたい。 次に4頁目の鳥獣対策について、成果指標はここだけ減るということになるが、何かいい表現はないだろうか。
半谷委員	鳥獣被害件数に関しては金額の評価の仕方が難しい。花とか園芸関係だと、花一本被害に遭うと300円、400円の被害金額になる。極端な話イノシシに田んぼに入られても、1、2畝くらいだったらそんなに金額はいかない。件数で追ってしまうと米とか、土地利用型の作物っていうのは被害金額が見かけより少なくなる。そこを調整していく必要があると思う。件数上は減少でも金額は上がったとか、金額は下がっても被害面積が増えているとか、そういう話になってしまっただけで設定は難しいかもしれない。
関谷委員長	被害額を削減すべきだろうか。
事務局	そうすると、被害額の算出はどうなるか。農家側で算出できるのか。
半谷委員	米の場合、イノシシに入られることはないが、猿には田んぼに入られて毎年収穫前に全部持っていかれてしまうこともある。極端な話、平均反収×被害面積で想定される被害金額というのはすぐ出るだろうが、多分、各農家でやらない。義務みたいになってくると、農家も気にしないようになってしまったり、被害が集中してきたら、もう放棄してしまう話になりかねない。ここは、件数と金額で追って行って、被害額を減らすような方向がいいのかなと思う。
関谷委員長	自然災害なども被害額なので、件数ではなく額の方が実態に合っているのかもしれない。
事務局	町の有害鳥獣対策は大きく2つある。営農する方の作物への被害と、人が住んでいない住宅への、ハクビシンであるとかイノシシが荒らすといった被害。これに対して、住宅水道課で所管しているワイヤーメッシュ対策であるとか、半谷委員からあったように農家だと被害額の算出とか、件数で見るといい点があるので、そのあたりを分けて管理した方がいいのかどうかも含めて担当課にも確認する。
関谷委員長	できるのかどうか確認をまずしていただきたい。
鈴木委員	実際、ハクビシンに家に入られて被害を受けているが、家の規模からすると被害金額的には大きい。
関谷委員長	実態把握自体は引き続きやっていただきながらということだと思うので、金額と件数が指標にできるかどうかを担当課の方で確認いただきたい。 では5頁、6頁に関してご意見をいただきたい。5頁目の右側のアウトカムに再開・創業と記載があり、その次が再開増加となっているが、新規出店よりは再開の方を重

事務局	視しているということなのか。必ずしもそういうことではないのか。
関谷委員長	必ずしもそういうことではない。 町内の事業数が増えたらいいという見方だろう。そうすると、このアウトカムは変えた方がいいのではないか。本文では別に問題ないのか。
事務局	改めて確認する。
関谷委員長	復興初期段階としては再開が重要だったのは間違いないが、今の段階は両方ではないかと思うのでその辺りも再度整理してもらいたい。あと下の方は結構カットするのか。基盤整備とか夜間・・・とかプレミアム商品券もカットして、新しく中心市街地活性化というのが増えているのか。
前司委員	夜間交通事業者への支援が消えるようだが、これまでの支援内容はどういったものなのか。
事務局	いわゆる運転代行業者で、町内にも事業所があるが、そういったことで、創業していただいているところに補助金を出しているというのがある。
前司委員	飲食業からしたらスマモビがあると助かるし、代行も 1 台体制だが助かっている。人と話していても結局は代行タクシーがないと飲み歩けないと言われてしまう。双葉郡の南側も同じような状況で、代行車両 1 台体制で使い時になかなか捕まらないとかはある。支援が必要なのかどうかと言われれば微妙なところではあるが、全くなくなってしまうと、どこの飲食店も苦しくなるだろう。スマモビ補助のようなものはあるのか。
事務局	国の補助は入っているが、町からは無い。
前司委員	実際、町内での利用状況を見ていて、もう少し遅くまでやってくればありがたいというのはある。駅前の方もお店が結構増えてきているので、もう少し遅くまでやってくれるといいというのが、町民目線というか飲食店目線でもあると思う。
事務局	町内全般的にも、時間帯によって交通事業者が全く稼働してなくて、交通空白になる時間帯だったりエリアがあって、全国的にもドライバー不足がある一方で、ライドシェアといった仕組みが全国的には出てきたりする。今後、町でも公共交通計画の策定を予定しており、この計画策定を通して、町民のほか、スマモビユーザーなどからも広く意見をいただいたものを政策に反映していきたいと考えている。今のご意見、深夜時間帯の交通需要も重要な視点になるので、町も引き続き必要な交通サービスを検討していく。
前司委員	実際、儲かるのであれば動いてもいいのだが、依然、補助がないと事業者側は厳しい状況。
石川委員	震災後、知り合いが少しやったことがあったが、採算が取れずに辞めている。依然、浪江町に行きたくてもなかなか来られない人も多いだろう。交通網の充実は重要だと思う。
関谷委員長	12 頁の方は、課題面が書いてあって、支援策の有無はそれ程重要なポイントではないと思っている。夜間の移動手段については引き続き課題であるとして、その解消に取り組んでいくということは書いておいてもいいのではないだろうか。引き続き課題は課題であって、まだ一定のニーズがあるということを残しておいた方がいいと思う。
前司委員	企業誘致を進めるのには、広大な土地が必要になるが実際町内には探しても無い。農地はあるが、雑種地というか開発適地が無いのではないのか。以前、大熊町と産業団

	地貸与の相談をしたことはあるが、結構ハードルが高い。そういった要件も見直す必要があるのではないか。また、富岡町など見ていると、町自体のビジョンがきちっとしてないといけない気がする。結構浪江町には最先端のものが入ってきているが、南側の町を見ていると、結構バラバラに企業が進出してしまっていて、あまりまとまりも感じない。やはり浪江町のビジョンをきちっと持ったうえで企業誘致を進めていただければと思った。
事務局	ご意見の通り、以前庁内でも議論があったが、なかなか答えが出せていない。改めて計画反映に向けて検討させていただければと思う。
前司委員	檜葉町みたいに誘致できたのに倒産に至ったケースもあるので、きちんと調べながらやっていく方がいいと思う。
関谷委員長	結構大事な話かもしれないので、支援制度の拡充と要件緩和等を促進のための条件整備のようなところは明示していただいた方がいいと思う。本文でもどこかに入れておいて欲しい。あと、F-REI が動き出した・・の記載があるが、F-REI にやってもらうことなのか、浪江町がやることなのか、それとも何かそこに入ってくる事業者が何かをすることなのか、未だ何か明確ではないような気がする。浪江町としてどう関連産業を拡大していくかということなので、はっきり強めに書いていただいた方がいいと思った。例えば、学園都市構想の取組とか実証推進というのは、そこは事業者がやる部分で、浪江町としては、それをいかに支援するかとか促すかということだと思うので、その方向で書くか、もしくは F-REI に要望するとか。もう少し浪江町を主語にして、どうしていくのかっていうふうに書いてもらった方がいいと思う。またアウトプットも滑走路の利用回数とかになっているので、やや違和感もある。これから実証事業だけ増やしても仕様が合わない。この立地事業者数とか関連する産業とかそういうのを増やすところだと思う。
葛西委員	資料2の3頁の上の段での見直しの主な考え方の4つ目の○で、一定の回復が図られたと判断し・・と記載されているが、この判断に至る根拠などがあれば教えていただきたい。戻っていないと思う方も居て、その支援はもうなくなったのかと納得されない方もいるかもしれない。
事務局(LB)	元々この中では、風評被害の払拭が大事だということで、ものにもよるが、安全性のPRが大事であったが、今は安全性のうえに、その商品のそもそもの魅力をPRするフェーズにあるという認識から、「1つ進んだ」という判断をしている。
事務局	庁内ヒアリングでもここの議論があったが、ブランド力だったり、販売力を強化していく、風評でこれまで福島県のもものが売れないという状況が前期計画策定時もあったと思うが、町の魅力を発信していくのに、風評で売れないということで外向けにPRしていくよりも、こんなにいいものがあるのだから、その魅力をいろんな方に知っていただいて、より販売力を強化していく中で、ブランディングだったり、どう販路開拓していくかというような視点で整理をさせていただいた。
関谷委員長	おそらく書き方の問題な気がする。福島県産の食品は、確かにブランドイメージが一時的にマイナスになって、その後回復してきたけれども、もとより「浪江町ブランド」があったのか振り返ったときに、実はそれ程有名ではなかったのだとすれば、そこから作っていく必要がある・・みたいな書きの方が妥当なのかなと思う。福島県産としては回復したけれども、請戸ものといった、浪江町の産品が売れていく段階まで

	は至っていない。そこを引き続き伸ばしていくところとの書き方だと思う。元々「浪江町」とか「請戸」に対するマイナスイメージというのはほとんど無いと思っていて、始めから福島県産という言葉に対するマイナスイメージがこの風評に関する議論なのかと思う。書き方をもう少し工夫していただければ違和感はなくなると思った。
鈴木委員	実際、「請戸もの」ということの PR は展開してきたつもり。
石川委員	町から魚を輸送するときに、業者の中には請戸ものと記載したものを入れて出荷している。そうやって頑張っていると思うのだが、なかなか我々の元にも反応がなくて、どうなのかと思ったりもする。
関谷委員長	そこはやはり、一定の回復が図られたというふうな実感がまだ無いということであろう。ここも書き方を工夫していただいて、引き続き販路拡大に取り組むということかと思う。
馬場委員	6 頁にある成果指標に、R T F 浪江滑走路・・・とあるが具体的に何なのか。
事務局	ドローン実験用の施設であるが、現在のところほとんど使われていない状況。
馬場委員	この項目は企業誘致の推進と言っているのですが、滑走路の利用回数というのは少々違うと思う。そもそも現案は F-REI とイノベ機構絡みの文章が多く、やや偏ったイメージになりつつあると思っていた。もう少し震災以前からの、浪江町に工業団地を作ったので首都圏など各方面からぜひ来てくださってというような原点に立ち返る必要もあるのではないか。その F-REI にしろ、成果自体が見えてくるのは早くて 3～4 年先の話であり、今からそこを見越しつつも、実証実験段階のところで企業が来てくれるのかというとなかなかハードルが高いことだと思う。もう少し違った目線も必要なのではないか。
関谷委員長	確かに種々の整備が完成しても、産業の活性化ってなるところはもっと後になるだろう。計画として次の 5 年、10 年ということを考えると、誘致というより、おそらく基盤整備もあるが、F-REI 構想が具体化していくに従って、どんな誘致をしていくのかの基盤づくりを考えると、少し落とした表現の方がいいのかもしれない。現状では今後何の研究成果があがってくるのかもよくわからない。
前司委員	沖縄の OIST のように、地域との融合ができないまま進んでしまうとお互い他人ごとみたいになってしまう。そういった対策の文言でも入れたほうがいいかと思う。
関谷委員長	基本計画の 15 頁に町内での企業や大学の研究活動・実証の推進とあるが、大学の研究活動も誘致策の 1 つになるのだろうか。あるいは産学連携施設のことか。何か意図はあると思うので、もう少し考えてもらえればと思う。
事務局 (LB)	趣旨とすれば研究活動のフィールドなのかそれともサテライトキャンパスのような場まで構える大学なのかというところをわかりやすく記載するようにしたい。
関谷委員長	交流人口増のようなことで言えば、大学とか研究室を呼んでも、企業でも同じようなことだと思うが、やはり産業誘致というのであれば少し違うかと思うので、何を意図しているのかももう少し明確にさせていただいた方がいいかと思う。
小林委員	林業のところで人材確保・育成の推進と書かれているが、例えば農業のところではスマート農業導入と書いてあるが、林業の ICT 導入のようなところはないのだろうか。他の項目でも人材の育成とか確保という文言が出てくるが、今後の町人口というのが、どこまで伸びていけるかわからない中で、人材確保という言葉が沢山並んでいて心配になる。

事務局	庁内の議論でも、その視点で検証してみるようなところまでは至らなかったのを、改めて事務局で検討していきたい。
関谷委員長	では7頁目について如何だろうか。復興をリードする人材の育成・確保という項目があるが、もう少し良い言葉はないだろうか。それこそウェルビーイングのような豊かな生活を送るための、という感じで、復興のための人材だと何かものすごく特化し過ぎているように思う。子供向け実験教室とか、研究フィールドツアーといったところは、学ぶ機会とか教育推進ということだろうし、町の復興にどうつながっていくのか。書き方がちょっと違う気がする。
前司委員	浪江焼きそば飲食店マップというものを制作していて、焼きそばを食べに来るだけでなく、浪江町で楽しんでお金を落として帰ってもらうような内容を検討している。現状の浪江町観光というのは、「見る」スポットは山ほどあるが、「体験」のスポットが少ない。ただ見て食べて買物して帰るではなく、もう少し家族で楽しめる場所とかそういうのを増やしていきたいと思ったときに、町内の丈六公園というのがよく出てくるが、町外から見て、丈六公園と言われても何だろうかというか、魅力的なものだろうか。
鈴木委員	展望台があって町が一望できるといった特徴はあるが、山中にあって坂と階段が多く非常に年寄り向きではないと思う。
小林委員	子供の体験のようなことで冒険広場を企画したことはあるが、大変好評だった。
事務局	都市公園ということで整備されたが、確かにそういう面での見せ方や活用というのはどうだろうか。震災以前にも町内では遠足とかで使われていたと思うが、PRなども含めてどう活用促進していくは議論されてこなかったと思う。
前司委員	そういう意味で、一考の余地があるのではないか。
鈴木委員	震災前に、公園を花見山にしようと商工会主体で植樹したことがあるが、震災で全部なくなってしまった。
前司委員	町外から人が来たときに、「見る」だけではなくて、体験できるようなスポットもどんどん増やしていく必要はあると思う。ツーリズムとしても、伝承ばかりでなく体験系を増やしていくといいと思う。「水素」に関しても、折角、最先端事業が誘致できたので、一般向けというより日本各地の専門分野に特化した興味・関心のある人に向けて、もう少し尖った形でいくのもいいのではないか。
関谷委員長	以前に学生を連れて行ったこともあるが、ストーリーが見えればより響きやすくなると思う。水素を活用したツーリズムは浪江ならではの良さだと思う。
岡委員	刈宿で倉庫をリフォームし、地域の集いの場として紙芝居を行っている。最近では、浪江特産の「浜の輝き」という玉ねぎの皮を使った草木染めを組み合わせるなどの工夫をしており、子どもや海外の方にも好評である。このように、身近なものでも楽しめる要素があると感じている。
関谷委員長	観光誘客としては、いろんなメニューを並べるよりはそれをどううまく繋げていくかということだと思うので、そこを書いていただいた方がいいだろう。個々の要素はもちろん大事だが、それらをどうツーリズムにしていくか、周遊させるのかだと思う。あともう1点、復興記念公園のことが出てこないが、記念公園をどう道の駅に回遊させていくかが結構大事だと思う。それもどこかに書いて欲しい。多分、伝承館から復興記念公園を回って請戸漁港を見て道の駅なみえでお土産を買って帰るというパターン

	ンが現実的なところだと思う。
半谷委員	「いこいの村なみえ」の遊歩道の整備が不十分だと思う。さくらまつりの会場の周辺で木の根の隆起があったりして危険である。
鈴木委員	桜の根っこの隆起の件は修繕を進めている。高瀬川溪谷は帰還困難区域にあるが、釣りなどの観光資源として魅力がある。ただ、このままだと釣った魚が食べられるまで60年はかかるとのことで、キャッチ&リリースも考えている。鮎の放流会は子供たちが定期的に道の駅でやっている。
関谷委員長	高瀬川溪谷については、ワークショップでも出ているので、ぜひどこかに記載して欲しい。
鈴木委員	比較的線量は低いですが、解除にならないと人が入れない。除染も必要。
石川委員	釣りに関しては、港での安全確保を理由に制限しているが、親子連れが釣りを楽しむ姿も見られる。一定の区画を解放するなどの対応が望ましい。
関谷委員長	釣りも観光資源として重要なのでどこかに書いてもらえればと思う。
岡委員	現在、社会教育委員になっているが、紙芝居から浪江町を知っていこうという活動を半年間やっている。紙芝居は山の方面もあるし里の方面もあるし、海の方の昔話もあるので、それをいろいろ知っていただきながら浪江町を知っていただくという会なのだが、将来は紙芝居の町になればいいと思っている。
前司委員	福島いこいの村なみえや丈六公園、道の駅なみえ等を積極的に活用し、町外から大型イベント等の受け入れを行うと記載があるが、多分大型のイベントは受入れるキャパが無いので厳しいのではないかな。ここの文言はもう少し精査したほうがいいと思う。
関谷委員長	受入可能な環境整備・・・などの文言で検討欲しい。
葛西委員	(ア)で民間事業者等と連携した復興ツーリズム等の観光周遊プランづくりというところに含まれるかもしれないが、岡委員がおっしゃったような紙芝居など、既存資源の活用だけでなく、より新しいコンテンツをみんなで創造し、作っていくところの支援とか、何かそういう意味合いの言葉が記載されているといいと思う。
小林委員	先程の復興をリードする人材育成に関して、復興とは何かという疑問にもなってしまうので、もう少しわかりやすい表現の方がいいと思う。 観光の方は成果指標で道の駅来場者数と観光・交流イベント来場者数が指標になっているが、道の駅は観光だけではない、様々な用事の人たちも含まれるのか。 観光・交流イベントに関して、どういったイベントの来場者数をカウントするのか、大小関係なく行政が主催しただけのものなのか。
事務局	道の駅来場者数については、日常的に使われる方も含めてカウントしており、現計画と同様としている。観光・交流イベントについては再度確認させていただきたい。
関谷委員長	いこいの村なみえも整備され、双葉の森や請戸もあるので、普通に考えれば入込客数は増加するのではないかな。道の駅に限定するより、観光的には町のいろんなところに来て周遊してもらうことが必要なので素直に入込客数とした方がいい気がする。町の中での動きを指標として測った方がいいと思う。
前司委員	どちらかというと受入側のことばかり書いてあって、実際浪江で観光振興といっても、おそらく町内に観光事業者は居ないと思う。つまり宿泊やバスの手配とかそういったツアーが組めないのが新しく考えていくことになると思う。できれば公共交通機関を強化して町まで来てもらって、ここで観光とか研修とかしていただいた方がいい

	と思う。直接お金も宿泊客も増えると思うのでそのようなことも記載していただければ。
事務局	公共交通網の充実の基本方針Ⅲの中で記載している。 (基本方針Ⅱ・Ⅲ)
小林委員	9 頁目の子育て環境の充実のところについて、前回に比べてメニューが増えてきており、意見をきちっと反映していただいて有難いと思っている。成果指標について、各種教室の参加者数というよりは、参加して楽になったとか、子育てが楽しいと思えるようになったとか、そういったところを指標にした方がいいのではないか。あとは学校教育について、成果指標の中に学校教育活動アンケートの評価とあるが、これは誰向けのアンケートなのか。その中に子供が入ってくるのか、または別の機会で子供が浪江で過ごすことに対して何か意見を述べる機会があるのかどうか、ちょっと気になっている。もう 1 点、学校の教員が本当に忙し過ぎて、学校ボランティアや人材バンクの活用が書いてあるが、地域の人たちも今まで学校に関わった経験がない方々も多いのでその繋ぎをもっと丁寧にしていただきたいと思う。
事務局	各種教室の参加者数については、この後の行動変容がわかるようなものを検討したい。学校教育活動アンケート評価については、教員と保護者と児童生徒それぞれ対象にしており、引き続き実施していきたい。地域や学校との関係構築については大事な視点だと思うので、計画本文に反映していきたい。
関谷委員長	子育てしやすいまちを目指すのであれば、参加者数ではなく、やはり参加されている方の満足度とかそういう方がいいと思う。
小林委員	こども計画策定時の、親側のアンケート結果を見たときに、やはり「子育てしづらい」という声が圧倒的に多いのが衝撃的だった。計画には直接関係無いかもしれないが個人情報のことだったり、緊急時マニュアルのことだったり、給食の問題もあったり、そういった基本的な安全・安心の確保に対する認識も重要ではないか。
前司委員	学校教育の充実に関する意見の中に大学の誘致とあるが、これは大学ではなく高等専門学校などでもいいと思った。
葛西委員	資料 3 の 25 頁にも、伝統行事等への参加機会等を充実し、町の歴史や伝統文化を次世代につなぐ活動を続けます。という記載があるが、これを実際誰がやるのか。伝統文化はその町の地域に根づいているものなので、住民の方が主体だと思っているが、それをサポートする仕組みたいなところが、もう少し具体化しないと書いて終わりにになってしまうのではないか。 あともう一点、資料 2 の子育て環境の充実の(新規) こども・若者の居場所(サードプレイス) づくりについて、他は NPO と連携してとか、NPO の活動の育成というふうには書かれているが、ここだけ居場所づくりで終わっていて、町なのか NPO なのか、誰がやるのかが記載されていない。
関谷委員長	今回答が出ないのであれば次回までに検討していただければと思う。 F-REI と連携した国内外に誇れる研究開発に触れる機会づくりとあるが、F-REI との連携についても、小中学生の視点に立ち、学びの機会として位置付け直すことが重要であろう。子どもの興味を引き出していく内容を検討していく必要があると思う。
馬場委員	実際に浪江町に住んでいる高校生は何人ぐらいいるのか。どこの高校に行っている人が多いのか。現状少ないのに高校再開というのはかなり難しいと思う。逆に町に籍

	がある高校生で就職希望があれば F-REI に毎年 2 人くらい優先的に採用するとか、南相馬でも高専誘致の要望書を出したと聞いたので、そこでバッティングしてもしようがないので、専門学校を誘致できれば浪江町の専門学校に入ってくれてくれる確率も高い気がする。実際原町高校では、1 学年に就職希望は 1 人。他は大学か専門学校へ進学している。高校進学率もほぼ 100%なので、高校再開も確かに必要なのだろうが、専門学校を浪江町に引っ張ってきた方が、その後のことを考えると現実的ではないか。実際、専門学校生が増えればアルバイトなどしてくれる人が増え、民間の業者さんも助かるのではないか。そういった視点があってもいいと思う。
関谷委員長	F-REI の基本スタンスとなっている PNNL をハンフォードに創った時の連携先というのが、ワシントン州立大学とあともう 1 つ短大もあって、短大を誘致している。テクニシャンというか技術的なことを手伝える人を養成して、大学に行ける人はそこから大学に行くみたいな感じで、日本で言ったら高専だろうし、必ずしも高校にこだわらなくても、ある程度の教育機関であればいいというのはその通りかもしれない。
事務局	高校の再開ということでは、今の高校生がふたば未来や南相馬まで行ったり、震災前なら浪江高校や双葉高校に行けたのに、わざわざ遠くに通わなくてはならないところもあるので、浪江高校でなくとも、双葉郡の北部あたりの高校を再開できればというのは、町民ワークショップからもそういった声をいただいているので、事務局としても県の教育委員会への働きかけるような形で計画に落としておいた方がいいと思っている。また、専門学校や高等教育機関といったもう少し広い意味での学校の誘致に関しても改めて本文の方で表現できるよう検討したい。
関谷委員長	浪江町内ではなく、双葉郡における、としてはどうか。
事務局	本文の案文では浪江町を含む双葉郡内における高校教育施設としている。
関谷委員長	本文は確認したが、高等教育施設等と等を付けてはどうか。
小林委員	子育て環境の充実の左側、ウ保育環境の充実の中にこどものサードプレイスであるとか書かれているが、これはどちらかと言うと、子供側が育つためのサポートとか子供の学び、子供の保護者側の支援というよりも子供側のへのサポートというイメージがあるので、保育・子育て環境の充実の位置付けに子供の居場所づくりに関する内容が入っているのに違和感がある。
関谷委員長	重要なお指摘かと思う。記載すべき項目を検討していただきたい。では次の 10～13 頁について、13 頁に災害の脅威や教訓を伝える物品等の収集・保存とあるが、これはどこかに保存してあるのか。
事務局	浪江高校および大堀地区の文化財収蔵庫に保存されている。
葛西委員	計画書案の 28 頁に記載されている、新たに整備された文化財収蔵庫っていうのが今おっしゃったところになるのか。芸能文化団体連絡協議会の方々の活動と伝統芸能の継承みたいなところは、何か全然違う場所になっていると思う。現段階では芸能芸術文化団体連絡協議会の方々の目的として多少違うと思うが、何かもう少し、この団体を管轄されている生涯学習課との対話であったり団体の人たちとの対話をして伝統芸能のサポートの部分に関わっていただけるような感じになればいいと思う。
関谷委員長	基本方針の大枠のところに記載していただければいいのではないかな。
岡委員	13 頁の震災遺構浪江町立請戸小学校について、語り部等と連携し被災の記憶の伝承を推進とあるが、語り部の育成も兼ねて浪江町を知ることやっているとやっていて、請戸

	小学校で働いている方が、自分でも震災の話を読みたいということに来て。読む仲間も増やしながら浪江町を伝えていけたらいいと思う。双葉の伝承館でも紙芝居、語り部をさせていただいて、その後に請戸小学校まで行くという方も多い。記憶が段々薄れていく中で、こういった現場が残っているということをきちんと伝えていかなければいけないと思っている。
関谷委員長	関心がある人であれば、伝承館だけで終わらずに請戸の方にもやって来るが、一般的な方に向けても、その辺りはもう少し広報として強化していく必要があると思う。
半谷委員	12 頁の文化財の保護のところで、文化財の展示の実施っていうのは先ほど話していた収蔵庫を開放するという事なのか。
事務局	大堀地区の文化財収蔵庫については、発掘して出てきた文化財などを保管保存するだけの施設で、現状展示機能はない。新たに展示の実施について記載したが、具体的にどこで何をというところが決まっているわけではない。
(傍聴席) 住民課 門馬委員	ふれあい交流センターの方にも多少の展示コーナーがある。そこで浪江町で発掘されたものを展示していこうというイメージはあるが、現状はそれ以前の発掘事業の方がピークで、そこまで手が回っていない。あるいは、何処か他所でスペースを借りたり、交流センターの会議室などもあるが、企画展の開催というような話もある。
前司委員	文化財の保護が大切なのはわかるが、やはり未来への負担にならないように、お金をかけて展示しても集客がゼロでは意味がない。伝統芸能の継承も大事ではあるが、子供達に無理強いしてまでやることではないとも思っている。
小林委員	そう言う意味では、デジタル化とか本にするとか、正式な浪江町史というものが有るようで無いと思うが、いつでも見えるようにする工夫とか、現物が残ってなくてもきちんと伝えていくやり方も必要かと思った。
関谷委員長	具体の整備計画がなくても、今後絶対に考えていくというような言葉を残しておくだけでも意味があるだろう。ぜひ書いていただければと思う。 次に帰還困難区域の再生と浪江町周辺を核とした中心市街地整備に関して如何だろうか。
前司委員	帰還困難区域のところで、陶芸の杜おおぼりでのイベントの定期開催とあるが、かなり集客し難いところだろう。もう少し役場の関与も必要だと思う。
関谷委員長	書き方というよりは中身の話かと思うので検討いただきたい。津島の方はいろんな形で外からの注目が集まっている地域ではある。ここは多分お二方がいろいろ議論されたいところかと思うので、次回もう一度議論することになるかと思う。 では次、16、17 頁について何かあれば。
馬場委員	17 頁に東京までの電車アクセスが不便とあるが、先日原町から東京に「ひたち」に乗って行ったが誰も乗っていない。住民の利用率が低い現実もある。要望を通していくにももっと利用促進が必要だと思う。
委員	事あるごとに常磐線利用を訴えているが、未だ利用者は少ない。少しずつ改善していくしかないが、常に要望することは大事だと思う。
関谷委員長 前司委員	町外者の視点から言うと、夜間と朝の便が増えればもっと利用しやすくなると思う。 浪江駅前開発について、駅構内については、何か魅力的な物を作ったりする計画はあるのか。
事務局	橋上駅舎化というのはある。

前司委員	駅自体も、もっとおもしろおかしくできたらいいと思う。立ち食いそばじゃなくて、立ち浪江焼きそばとか。焼きそば弁当とか購入できるといいのではないかな。
小林委員	町内の着地型観光を考えると日曜日の交通手段が本当になくて、観光客に土日宿泊して周遊してもらうとなると、土曜日はいいが、日曜日はどこにも行けないみたいになっている。やはり日曜日の交通手段は検討していただきたい。
事務局	今年度策定する公共交通計画の中でも、空白になってるところをどう改善するのかいろいろ知恵を出しながら計画の中で位置付けていければと思っている。目標指標で掲げた公共交通空白の時間帯、日曜日の運行というところに関しては、将来的に人が増えてくれば、ある程度路線バスの再開が期待できる部分になってくるが、人が増えるまでの間、デマンドで賄うとか、そういったところを施策として考えていきたい。
関谷委員長	F-REI ができるまでに交通網が整備されないと結局南相馬などに住まわれてしまう。今後の人口増を見越してどこか視点として入れておいて欲しい。人が増えれば交通網も充実してくるのは当たり前なので、増えていくことがわかっている地域にどう要望して整備していくのかという部分は、もう少し書き込んでもいいかと思う。
葛西委員	18 頁の成果指標で自主防災組織数があるが、自主防災組織というふうな形式でなくとも、自主的にそういった活動をしているところも結構あるので、組織をどうとらえるかが大事である。あともう 1 点、19 頁の消防団について、そもそも人が少ないので、団員加入促進といって、本当にこれが伸ばせるのか再度検討する必要があると思う。
関谷委員長	自主防災組織については確かにそういった面があるだろう。消防団のほうは、町に常設消防がなくて、消防団は火災時の初期消火対応が多分メインになるので、入らないから大変ではなく、入らないから何とかしなくてはならなくて、常設消防のないエリアが沢山あるところの課題なので、もう少し書き込んでいただけるといいかと思う。
鈴木委員	消防分団の見直しはするのか。
事務局	かねてから、見直しの必要性は言われており、話し合いは進めつつも、なかなか再編に結びつけていない。この後期計画の本文 43 頁に消防団の再編の検討をするというような文言で記載している。
関谷委員長	消防団のところは文言をちょっと強くしていただいた方がいいと思う。
前司委員	福島県が経済産業省の水素重点地域に選ばれて、今、東北では福島のみっていうことで経済産業省の方で補助金等々を入れて、水素の社会実現していくことが決まった。ここに書いてある内容は多分このままで全然問題はないと思うが、大型商用車向けの補助制度なども今後視野に入れていくといいのではないかな。
関谷委員長	それはぜひ、20 頁のところと本文にも書き加えていただきたい。 それでは予定時間となったようなので、今日言い足りなかったところや後で思い出したことがあれば、ぜひご連絡をお願いしたい。以上をもって本日の次第 3、基本方針Ⅰ～Ⅲの議論を閉じたいと思う。
次第 4	その他
事務局	次回 7 月 9 日（水）13:30～より室原の防災交流センターで策定委員会を予定している。 以上で本日の委員会は終了とする。

以上